| | | | |
|---|---|---|---|
| 講義名 | 研究演習Ⅱ | | |
| 講義コード | 15046 | 授業形態 | |
| 担当教員 | 平越　裕之 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 通年 月曜日 ５時限 | | |
| 備考 | | | |

## ゼミ

学部ゼミ・学科ゼミ

## 学部

経済学部

## 学科

経済情報学科・経済学科

## 演習名

平越裕之ゼミナール(システム分析論)

## 概要説明

＜対面講義の場合は、感染防止に努めること。マスク着用、大声を出さない、人との距離を取るなど。＞

・物事を興味を持って見つめる。
・「当たり前」と思っていることの拠所は何であるのか考える。
・さまざまな可能性を重み付きで考える。
・自分の意見の反対側にある意見の拠所を考える。
・多様な価値観に耳を傾ける。
・自分の都合だけを考えない。
・「完璧」はないものと認識する。
・重要なことをつかむ。
・あまり重要でなさそうなことを完全に切り捨てない。
・いらいらしない。
・怒らない。
・カッコつけない。
・数学的なものの考え方。そしてそんな考え方が好き。
・情報ツールやPC上の操作を理解しようという姿勢とセンス。
・局所的に陥らない大局的なものの見方と、必要なところを掘り下げる緻密さのバランス感覚。
のようなこと／ものも持ちたいと思って下さい。

研究課題
本ゼミナールでは、「問題」を科学的に捉える能力、及びその表現、分析能力を養うことを目的とします。特に「知っている」かどうかより「なぜそうなるのか」を考えることが重要だと考えています。特定のものを限定して扱うというよりも、方法を限定して、扱うものを出来るだけ限定しない方針です。

①　研究演習Ⅰ（2年次後期）　フィールドワーク準備、情報ツールとしての計算機操作の習得

　情報ツールを用いた社会貢献、広報、案内作成などをグループで計画し、実際に学外の店舗などと掛け合って実行に移せる準備を行っていきます。

　一方、アプリケーション（主にExcel）を用いた数値データ処理･分析に関する知識・技術も習得していく予定です。データの処理や分析は、一般的に統計と呼ばれることもありますが、この段階ではあまり複雑なものではなく、良くありそうな数値データを基にして、自身でデータ処理･分析を行い、分析の感覚をつかむ演習にウェイトを置いています。

②研究演習Ⅱ（3年時前期）　フィールドワーク実行、分析手法等の学習

　2年次に計画したフィールドワークを実行に移す、あるいはさらに進めて実行します。

　一方、論理的思考能力、システム分析力を身につけるため、2年時から引き続き、基礎的な数学等について学習します。PCを用いての基礎統計、確率、シミュレーション等の予定です。また、実際の問題を発掘し、そのデータを用いて、アプリケーション演習演習を行います。内容は、随時変更することがありますが、題材が違っても姿勢は変わりません。

　ここまでで一年であるため、①②とも焦点を絞ることもあります

　※なお、学外の見本市会場等と協力して、「情報ツールの有効な活用方法の提案」を議論する場が設けられるかもしれません。その場合は希望者を募り、大阪南港等に出向いて現地調査や打合せを行ったり、情報ツールの調査や活用方法の考案･提案を行ったりします。（この際の交通費などは自前です）

　（なお、2年次、3年次前期に関しては、ゼミメンバーの適性を考慮し、内容を変更することがありますので、了承ください。）

③　研究演習Ⅱ（3年次後期）
　卒業研究を睨み、テーマの選定、調査、計画などを行なうと共に、実際に卒業研究を開始します。テーマは相談の上、原則として自主的に決定してもらいます。それまで行ってきた内容を進めても構わないし、新たなものに挑戦しても構いません。ゼミの時間内では発表、討論、演習を中心に行います。そのため、卒業研究を進めるために必要な内容で不足している部分は自学を行なうことが必要です。
　研究ではありませんが、この時期から本格的に進路について考えてもらいます。真摯に自分を見つめて、卒業後のことを考えてもらいます。就職希望の人には、学内就職行事への参加を義務付けます。

④　卒業研究（4年次）
問題の発見力、分析力、システムの設計力、表現力、提案力を養うため、３年次より開始されている卒業研究を完了します。提出前何か月かで完成させれば良いと

## 学位

博士（理学）

## 教員よりの要望

＜ゼミは対面講義を主とする予定ですが、感染状況により全学でオンラインへの切り替えが決定された場合、学生の都合などでオンライン開講、あるいはオンラインとの併用を行う可能性があります。様々な意味で完全な対面講義とは差異が発生する可能性があります。連絡手段を確保する必要がありますので、講義開始後学年別のゼミのHangoutsなどを開設する予定です。まずは講義連絡などを通して連絡します。＞

　出来ること、出来ないこと、得意なこと、不得意なこと、長所、短所、いいこと、わるいこと等、良い格好せず、自分を、まわりをまじめに見つめることを希望します。
　また、ゼミは個人ではなくチームです。人に合わす必要はありませんが、周りに対する優しさを持って接して下さい。これは「無関心」ということではありません。関心を持ったうえで多様性を認めることがチームとして重要となります。

☆相当な理由がない場合、無断での欠席・遅刻はしないこと。（事前に連絡を入れる）
☆学内の有用な（と思われる）行事（例えば就職関連行事等）に参加すること。
☆ゼミ所属期間中にメールでの報告を週一程度で義務づけることがあります．きちんと提出できることが必要です。

## 教員英字氏名

Hirakoshi Hiroyuki

## 研究室

研究棟Ⅱ 2509研究室

## 最終学歴

神戸大学大学院工学研究科システム工学専攻修士課程了

## 主な研究活動・社会活動・研究業績

・Rasch項目分析モデル測定母数推定値分布幅、テスト次元性、並びに、Rasch測定適用妥当性
, 流通科学大学論集(2008:共著)
・複数条件を考慮した時間割配置問題のハイブリッドGA解法，流通科学大学論集(2008:共著)
・複数の待機状態を持つオートスリープシステムのコスト有効性に関する考察－多決定変数の解析－，流通科学大学論集（2006）
・申込型授業参観運用システムの設計･開発，流通科学大学論集（2005）
・待機状態を持つハードディスクの回転制御に関する考察---コスト有効性の最大化---，流通科学大学論集（2003）
・An Optimal Time to Sleep for An Auto-Sleep System considering Multi-Usage States, Mathematical & Computer Modelling, (2000：共著)
　など

## 主な卒業論文のタイトル

カテゴリ別英語辞典ソフトの開発
携帯電話アプリケーション開発における入門性の違い
など

## 趣味・特技

音楽など

## 所属

経済学部経済情報学科

## 所属学会

電子情報通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会

## 専門分野

確率モデル、システム工学

## 選考方法

研究演習Ⅰ（2年次後期）
・書類選考

研究演習Ⅱ（3年次）
・他のゼミから希望するものは研究演習Ⅰと同様に選考しますが、研究演習Ⅰの内容と同程度以上習得を行なっていることも重要です。また、移動しようと思った経緯をA4一枚程度で説明して下さい。

## 担当科目

プログラミングⅠ、プログラミングⅡ、情報ネットワーク、研究演習Ⅰ,Ⅱ、卒業研究

## 備考

＜ゼミは対面講義を主とする予定ですが、感染状況により全学でオンラインへの切り替えが決定された場合、学生の都合などでオンライン開講、あるいはオンラインとの併用を行う可能性があります。様々な意味で完全な対面講義とは差異が発生する可能性があります。連絡手段を確保する必要がありますので、講義開始後学

## 評価方法

＜ゼミは対面講義を主とする予定ですが、感染状況により全学でオンラインへの切り替えが決定された場合、学生の都合などでオンライン開講、あるいはオンラインとの併用を行う可能性があります。様々な意味で完全な対面講義とは差異が発生する可能性があります。連絡手段を確保する必要がありますので、講義開始後学年別のゼミのHangoutsなどを開設する予定です。＞

出欠状況、課題提出、ゼミ活動での貢献度を基に総合的に評価します。

・2/3以上の出席は必要です。

## 実務経験の有無及び活用